



# 介護保険情報

火曜日・金曜日送信  
(祝日を除く)

株式会社医療タイムス社

取材などの依頼は編集企画部まで

☎026-217-8770

FAX 026-235-6089

✉nagano@times-net.net

この情報は契約会員のみ提供するものです。従って複製等により第三者へ流すことはご遠慮ください。

## 職員主導で週休3日が成功 佐久の望月悠玄福祉会

県社会福祉協議会と県社会福祉法人経営者協議会は9日、長野市内で「2024年度福祉人材確保・定着支援セミナー」を開いた。多様な働き方として一部の事業所で「週休3日」を導入する望月悠玄福祉会(佐久市)と梓の郷(松本市)が事例発表した。



望月悠玄福祉会常務理事・部長の篠原郁子氏は入所施設で週休3日が成功したポイントとして、自分たちの働きやすい環境を作りたいという強い信念をもった職員が主導で決めていったことなどを挙げた。

同法人では、ハローワーク経由の応募がほとんどなく、人材紹介会社を利用するものの人材が定着せず、年間の人材紹介手数料が1500万円を超えていた。また、入所施設は慢性的な残業で職員が疲弊し、利用者へのケアに余裕が持てず離職につながる課題を抱えていた。

そのため、22年5月に法人全職員を対象に改善提案の意見を募り、その中に養護老人ホーム佐久良荘の職員から週休3日の提案があった。試行に向けて施設内にプロジェクトチームを作り準備を始めた。職員が週休3日のシミュレーションを作り、「1日の労働時間の兼ね合いで完全な週休3日にはせず、1日の勤務時間を9時間15分。毎月12日休み、年間休日145日(有給含まず)」と設定。職員アンケートを実施し、週休3日に賛成の職員が多かったことから、職員が決定したシフト時間で23年1月から試行。同年4月に本格的に選択制の週休3日を導入した。

佐久良荘では、常勤職員25人中、7割の17人が週休3日を選択。

【次ページへ続く】

篠原氏は「週休2日の時は80人の利用者を職員1人で見ないといけない時間もあった。週休3日の導入でどの時間も最低2人は職員がいるため、不安感や負担感の軽減ができた」とメリットを話した。このほかにも▽家族と向き合う時間が増えた▽身体を休めるので気持ちに余裕をもって仕事に臨め、利用者へのサービス向上につながった一などの効果が職員から出ているという。

一方、デメリットには▽休みが増えたため、情報共有が難しく、今まで以上にグループラインを活用している▽急遽欠勤者が出た際の勤務調整が大変一などを挙げた。

同法人では現在、特別養護老人ホーム結いの家とデイサービス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所の各1事業所でも選択制の週休3日を導入している。

### ■働き方の選択肢増やすため週休3日導入 梓の郷

梓の郷では、週休3日を働き方の選択肢を増やすきっかけづくりや、ワークライフバランスによりまとめて働くことで自分時間が増え、公私ともに充実を図ることなどを目的に導入。現在は特養サルビアの5フロア中2フロアで取り入れている。

また、職員の子どもが3歳から小学校3年生までの間、変則勤務を免除しながら正社員のまま働ける「育児スライド勤務」を紹介した。

経営管理課長の高橋健太氏は「求人応募者数は急激に増やせないが、週休3日や育児スライドなどによるワークライフバランスで今いる職員の離職率は減らせる」と説いた。

この日のセミナーには福祉事業所の経営者、管理者、人事・労務担当者ら約70人が参加した。

## 医療・福祉 2.3%増 県内給与4月分、5人以上事業所

県がこのほど発表した4月の勤労統計調査によると、基本給・超過勤務手当を含む「決まって支給する給与」は、従業員5人以上の規模の事業所のうち、医療・福祉産業が1人平均26万7727円で前年比2.3%増。全産業では25万7807円で0.5%減となり、28カ月ぶりに前年同月を下回った。

30人以上の規模の事業所では、医療・福祉産業が30万2430円で2.6%増。全産業は28万2236円で0.8%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。

医療・福祉産業の所定外労働時間は、5人以上規模が平均5.7時間で5.6%増。30人以上規模は6.7時間で21.8%増えた。

【次ページへ続く】

常用労働者数は5人以上事業所が13万3235人で0.2%増。30人以上事業所が8万7646人で0.6%増えた。

### 上田に特定施設入居者生活介護 県内1日付

県は1日付で、次の事業者を介護保険サービス事業者に新規指定した。新規指定は次の通り。

#### 【特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護】

△慎(上田市、一新)、施設区分は有料老人ホーム、利用定員は30人

### 21日、緩和ケアテーマに市民公開講座 丸の内病院

丸の内病院(松本市、百瀬敏充院長)は21日午後1時から、塩尻市北部交流センターえんてらすで「大切な人ががんになったら～もしもの時に困らない選択肢」と題して塩尻市で市民公開講座を開く。合同会社ナースセンター時の駅(塩尻市)、塩尻市任意団体がんサポートおむすびと共催。がん患者と患者家族の生活の質向上を目的に、広く一般に向けて緩和ケアの普及啓発を行う。

丸の内病院緩和ケアセンター長で緩和ケア内科科長の栗崎功己氏が緩和ケアの基本について講演するほか、医師・訪問看護師・がん経験者が「がん生活のあれこれ」をテーマにパネルディスカッションをする。また、公的制度や訪問看護などの相談会、介護用品・医療用ウィッグの展示もあり、がん患者と家族が抱える不安に対する支援や相談先を紹介する。

参加費は無料、事前申し込み不要。問い合わせは時の駅(Tel 0263-87-8512)へ。

### 熱中症搬送、前週の4倍 1～7日は9105人 総務省消防庁

総務省消防庁は9日、熱中症で救急搬送された人が1～7日の1週間で9105人だったと発表した。35度以上の猛暑日となる地点が相次ぎ、前週(6月24～30日)の4倍となった。今年の調査を開始した4月29日以降で、1週間の搬送者数として最多だった。

搬送された人のうち、65歳以上の高齢者は5378人で全体の59.1%を占めた。死者は19人で、3週間以上の入院が必要な重症者は210人だった。熱中症の発生場所は、自宅などの「住居」が3449人と最も多かった。